項目	柏崎鮮魚商協同組合 〔避難所弁当〕	北条ふるさと市場　暖暖 〔避難所弁当〕
１きっかけ	行政の依頼で中越沖地震の被災者の方々への食事（お弁当、おにぎり、パン）を提供させていただき、その時のノウハウを基に､今回も行政から相談され弁当提供をすることになった。	行政からの打診を受け（柏崎市役所農林水産課・商工振興課）
２内容	■時期：平成23年3月20日～4月30日 ■場所・対象者：被災者避難所 ■従事者（人数）：約80人 ■経費負担： ■調理場所：指名した各店舗 ■配送方法：指定をした避難所へ各自配送 ■内容：　（避難所弁当） 〇食事内容 ・昼食と夕食の弁当提供 〇献立作成や食事提供時の配慮 ・献立を考え、事故のないように最大限に配慮 	■時期：３月１７日～４月２０日まで ■場所・対象者：田尻コミセン　　福島原発避難者 ■従事者（人数）：平均４人 ■経費負担：「暖暖」会計 ■調理場所：「暖暖」調理場 ■配送方法：コミセン（センター長・副会長自家用車） ■内容 〇食事内容（献立内容、回数、食数など） ・３月17,18日の２日間はおにぎり590個 ・３月19日～４月20日までは夕食用弁当を2,390食 〇献立作成や食事提供時の配慮 ・初回の弁当配達時、避難所に出向き、避難者の年代層を確認、また食べたいかなどの要望を聞いた。また、ボランティアの炊き出しと競合しないようなメニューに心掛けた。 ・家庭の味に近い総菜づくりに努めた。 ・夕食として口にする時、ご飯や総菜に温かさが残っているよう逆算して 　調理に努めた。
３感想等	〇よかった点 ・事故がなかったこと。 〇困ったこと、反省点 ・炊き出し等との関連がうまく機能せずに弁当が余ることが多かった。 ・もう少し被災者のニーズに応えられたら良かったと思う。	〇良かった点 ・「暖暖」にとって、このたびのような大量注文は初めてだった。対応能力がどこまであるのかという一つの挑戦でもあったが、３３日間休まず対応できたということは、その後の暖暖運営に大きな自信となった。 ・主食の米（安価）や野菜の提供等を町内会長をはじめとする地区民が支援。 〇困ったこと、反省点 ・予算が限られていたこと、メニューのレパートリーが少なかったこともあり、メニューが固定化してしまい、少々飽きられなかったかなという気持ちが残った。 ・スタッフ不足と高齢化、いつ終了するか分からない中での対応だったので、通常営業を兼ねての労働だったのでスタッフの負担は大きかった。
４今後検討が必要なこと	〇自らできること ケースバイケースであるが、築かれた協働関係（ネットワーク）に参加すること 〇地域への要望など 柏崎も災害時に於ける一番大切な食に対し、「地域の流通システム」を構築しても良いのではないかと思う。	〇自らできること ・中越地震以降、地域福祉や災害時の炊き出し対応など、地域の活動拠点として暖暖が担うウエートは大きくなると感じる。一方、暖暖スタッフの高齢化と人材不足が課題となる中、コミュニティにおける「暖暖」の位置付けの見直しが必要と感じる。

項目	柏崎農業協同組合 〔炊き出し〕	新潟県菓子工業組合柏崎支部(光月堂) 〔炊き出し〕
1きっかけ	行政より打診依頼があり(おにぎり・とん汁)実施した。	組合青年部より声があがり、今年　組合創立70周年をむかえるにあたって、その一部を支援にと決定した。
2内容	■時期:3月19日～24日 ■場所・対象者:中央・田尻コミセン、市総合体育館 ■従事者(人数):10人×6日 ■経費負担: ■調理場所:愛菜館・米山山荘 ■配送方法:JA車にて ■内容:　炊き出し ○食事内容 お昼におにぎり、豚汁、きのこ汁 ○献立作成や食事提供時の配慮 ・衛生面 ・野菜不足を考え、野菜の種類と量の多い汁もの提供	■時期:4月12日～13日 ■場所・対象者: ①宮城県仙台市若林地区 ②宮城県気仙沼市 ■従事者(人数):23名 ■経費負担:約110万円 ■調理場所:現地　中学校、小学校、お寺 ■配送方法:2tトラックロング1台、1Box3台、普通車2台 ■内容: ○食事内容 鯛めし2,000食、アメリカンドッグ400本、 あんコロッケ450個、山菜おこわ2,200食、 フライドポテト70kg、おしるこ700食 カレーパン600個、笹だんご2,000個、 ロールケーキ2,100個、その他お菓子7,000個 ○献立作成や食事提供時に配慮したこと ・出来たて、あったかいものの提供 ・ロールケーキは生クリームにこだわり
3感想等	○良かった点 ・JAの女性部に応援依頼し、人員の確保がすぐにできた。 ・行政より、汁物運搬の入れものを借用、暖かい汁物を提供できた。 ○困ったこと、反省点 ・経費面のこともあるが、JAの五穀米等の利用も考え、栄養面での補給に貢献すればよかった。	○よかった点 ・震災後1ヶ月がたち、始めて揚げ物(Fフード)、生ケーキを口にしたとよろこんでもらった。 ○困ったこと、反省点 ・現地のボランティアセンターとの連絡がとりずらい。 子どもたちとのもちつきの交流。がんばろう東北！
4今後検討が必要なこと	○自らできること ○地域への要望など 野菜、タンパク質のとれる豚汁ですが、差し入れ団体等から豚汁が多く「あきた」との意見があり、調整できればと思います。	○自らできること 炊き出しへの対応 ○地域への要望など 場所、食数、食事内容への希望等の情報

項目	（株）ブルボン 〔炊き出し〕
１きっかけ	当社は、1924年（大正13年）に創業者である初代社長が前年の関東大震災の影響により地方への菓子供給が全面的にストップした窮状を見て「地方にも菓子の量産工場を」と決意し創業。 また、1995年（平成7年）1月の阪神淡路大震災の日に生産を開始したミネラルウォーターを急遽救援物資としてお送りしたほか、新潟県中越地震、スマトラ沖地震、新潟県中越沖地震、中国四川・汶川地震、岩手・宮城内陸地震、ハイチ大地震、中国青海玉樹地震、ニュージーランド地震などの災害に際し、救援物資や義援金をお送りしている。
２内容	■時期：平成23年3月13日～3月22日 ■場所：対象者：仙台市、石巻市等 ■従事者（人数）：延べ42名 ■経費負担：当社 ■調理場所：現地避難所 ■配送方法：当社での自社調達、輸送 ■内容：　炊き出し 〇食事内容 ・そば、カレーうどん、ご飯・味噌汁など　延べ2,550食 〇献立作成や食事提供時に配慮したこと ・平常時並みの衛生管理下で、手数を掛けずに、大量の食事を提供するメニュー。 ・当時は仙台でも路面凍結する状況であったため、とにかく暖かい食事を提供すること。 ・実際の配布人数は当日にしかわからないので、一人当たりの分量を全員に行き渡るように調節すること。
３感想等	〇よかった点 ・大勢の人から震災後、初めて温かい食事ができたという感謝の言葉が励みになった。 ・テレビ画面の中の別世界ではなく、現実に日常の生活を一瞬で失った事実を肌で感じ、自然との共存の難しさ、安全・安心の大切さを改めて感じた。 〇困ったこと、反省点 ・治安が悪く支援物資が襲われるというチェーンメールによる不安や釜石、大槌などですべての携帯電話が通信不能であった為、衛生携帯などの非常時通信手段を準備すべきであった。 ・ボランティアで活動する者が現地の足手まといになってはならないので、燃料、水、食料を含め、自己完結型での支援活動が必要。
４今後検討が必要なこと	〇自らできること 息の長い支援を、復旧・復興進み方に合わせて、実施していくことが必要だと思う。 〇地域への要望など 被災後の正常化に向けたプロセスで、生活に対するニーズも異なってくるので、細かいニーズの収集と必要な支援内容を情報公開し、ミスマッチを無くすることが必要だと思う。

項目	柏崎市	刈羽村
１きっかけ	○避難所での健康・栄養課題 （１次避難所） ・弁当の野菜不足、揚げ物多い ・ごはんが硬くて食べられない声あり （２次避難所） ・施設によっては食事量が多く、残食あり ・乳児用、高齢者用のおかゆ提供など個別配慮に差がある ・施設によっては昼食提供が困難で、宅配弁当を提供	○避難所での健康・栄養課題 避難所へ配達している弁当が、衛生面等の理由から野菜の量が少なめのお弁当だったので、野菜不足からくる健康問題が心配された。
２内容	■時期：避難所開設後から ■場所・対象者：避難者全員 ■内容： ・栄養士会と連携をとり栄養補助食品のサンプルを妊婦、高齢者に配布 ・栄養士会と連携し、炊き出しの実施 ・食事のとり方ポイント、栄養相談窓口に関するチラシ作成・配布 ・保健所と連携し、二次避難所巡回（ちらしや参考献立の提供、食事状況調査実施）	■時期：避難所開設後から ■場所・対象者：避難者全員 ■内容： ・弁当業者の栄養士が考えた弁当であったが、野菜が少なめだった。 ・各避難所の調理施設を使って、野菜料理を作った避難者もいたが、ボランティア等の炊き出しで野菜がたくさん入った料理（汁物など）を週４～５日、用意してもらった。 ・その際、各避難所に調理器具や調味料を配布したり、炊き出しの相談を受けた時に、野菜をたくさん使った料理を作ってもらうよう勧めたりした。
３感想等	○よかった点 二次避難所での食事提供の様子がわかった。地元食材を取り入れたり、家庭料理を提供する等の工夫が多く見られた。 ○反省点 ・避難所での食事が個々の身体状況に見合っていない場合もあり、不便を感じていた人もいたようであった。 ・避難所弁当の内容の偏り（揚げ物が多い、野菜不足、ご飯が硬い）等が見られたことから、栄養バランスに配慮した食事が提供できるとよいと感じた。普段からの対策が必要である。 ・二次避難所における食事の対応に差があり、もう少し早く情報提供ができればよかったと感じた。	○よかった点 野菜不足にならないよう配慮できた。 ○反省点 弁当業者の栄養士がメニュー等でいろいろ気を遣ってくださったので、とても助かった。今後も弁当業者と連携をとっていきたい。
４今後検討が必要なこと	○避難生活が長期化した場合でも、栄養バランスや食欲がわく食事の提供ができるような体制整備	○糖尿病、腎臓病向けの食事（弁当等）が用意できる体制が必要。 ○弁当業者等の食事を作る対応も必要ではあるが、糖尿病、腎臓病の避難者へ確実に配布する方法も考える必要がある。